



認知障害症候群の 評価ツール

認知障害症候群 (CDS) は、人間のアルツハイマー病に類似した不可逆的な脳の変性を指し、高齢化に伴って発生すると予想される範囲を超えた進行性認知障害を特徴とします。CDS は徐々に発症するため、管理が難しく、推定で 8 歳以上の犬の 14% が発症します。

DISHAA とは？

犬を CDS と診断するには、犬が特定の挙動を示していることを飼い主が観察する必要があります。DISHAA ツールは、飼い主がそのような挙動を特定するために役立つとともに、獣医と飼い主が協力して犬の知力 (精神的な鋭敏さ) を評価する際にも有効です。

D

見当識障害

- 立ち往生する、物体をよけることが難しい、扉のヒンジ側に向かって進む
- 壁、床、宙をぼんやりと見つめる
- よく知っている人/ペットを認識できない
- 自宅や庭で迷子になる
- 視覚刺激 (見えているもの) や聴覚刺激 (音) への反応が低下する

I

社会的交流

- 訪問者、家族、他の動物に対して怒りっぽくなったり、怖がったり、攻撃的になったりする
- 接近、挨拶、愛情表現/ふれあいに対する興味が薄れてくる

S

睡眠/覚醒のサイクル

- 徘徊する/落ち着きがない/睡眠時間が短くなる/夜間に覚醒する
- 夜中に鳴く (吠える)

H

室内での粗相、学習能力、記憶力

- 新しい課題を習得したり、過去に学んだコマンド/名前/課題に反応したりする能力が低下する
- 室内での粗相 (排尿や排便)/屋外に出たがらなくなる
- 犬の注意を引くことが難しくなる/気が散ることが多くなる/集中力が低下する

A

活動

- 何かを探索したり、おもちゃや家族、他のペットと遊んだりすることが減る
- 目的のない徘徊やうろつきなどの活動が増える
- 反復行動 (ぐるぐる回る/噛む/なめる/呆けたようになる)

A

不安

- 飼い主と離れると、非常に不安がる
- 視覚刺激 (見えているもの) や聴覚刺激 (音) に過剰に反応したり、怖がったりする
- 場所に対して怖がるようになる (新しい環境/屋外に出るなど)

認知障害症候群の
評価ツール



認知障害症候群 (CDS) は、人間のアルツハイマー病に類似した不可逆的な脳の変性を指し、高齢化に伴って発生すると予想される範囲を超えた進行性認知障害を特徴とします。CDS は徐々に発症するため、管理が難しく、推定で 8 歳以上の犬の 14% が発症します。

DISHAA とは?

DISHAA は、飼い主と獣医師が犬の知力 (精神的な鋭敏さ) を評価する場合や、獣医師が認知障害症候群 (CDS) の可能性を診断する際に有効なツールです。

- D** 見当識障害
- I** 社会的交流
- S** 睡眠/覚醒のサイクル
- H** 室内での粗相、学習能力、記憶力
- A** 活動
- A** 不安

日付: _____

飼い主の氏名: _____ ペットの名前: _____

年齢: _____ 性別: オス メス 去勢/避妊手術: なし あり

犬種: _____ 体重: _____

BCS (ボディコンディションスコア 1~9): _____ 現在の食餌: _____

服薬および投薬の頻度: _____

飼っているシニア犬の認知能力評価を記入してください。複数の行動カテゴリで変化が見られる場合は、愛犬の老齢化する脳について獣医師に早急にご相談ください。

行動の徴候

8 歳を超えてから発生した、または進行した徴候について、スコアで評価してください。

スコア 0 = なし、1 = 軽度、2 = 中等度、3 = 重度

スコア

| 見当識障害 | スコア |
|------------------------------------|-----|
| 立ち往生する、物体をよけることが難しい、扉のヒンジ側に向かって進む | |
| 壁、床、宙をぼんやりと見つめる | |
| よく知っている人/ペットを認識できない | |
| 自宅や庭で迷子になる | |
| 視覚刺激 (見えているもの) や聴覚刺激 (音) への反応が低下する | |

裏面の評価も記入してください。



認知障害症候群の

評価ツール

続く

行動の徴候

8歳を超えてから発生した、または進行した徴候について、スコアで評価してください。

スコア 0 = なし、1 = 軽度、2 = 中等度、3 = 重度

スコア

社会的交流

訪問者、家族、他の動物に対して怒りっぽくなったり、怖がったり、攻撃的になったりする

接近、挨拶、愛情表現/ふれあいに対する興味が薄れてくる

睡眠/覚醒のサイクル

徘徊する/落ち着きがない/睡眠時間が短くなる/夜間に覚醒する

夜中に鳴く(吠える)

室内での粗相、学習能力、記憶力

新しい課題を習得したり、過去に学んだコマンド/名前/課題に反応したりする能力が低下する

室内での粗相(排尿や排便)/屋外に出たがらなくなる

犬の注意を引くことが難しくなる/気が散ることが多くなる/集中力が低下する

活動

何かを探索したり、おもちゃや家族、他のペットと遊んだりすることが減る

目的のない徘徊やうろつきなどの活動が増える

反復行動(ぐるぐる回る/噛む/なめる/呆けたようになる)

不安

飼い主と離れると、非常に不安がる

視覚刺激(見えているもの)や聴覚刺激(音)に過剰に反応したり、怖がったりする

場所に対して怖がるようになる(新しい環境/屋外に出るなど)

合計 (用紙の表面のスコアも必ず合算してください)

獣医師は、この用紙に記入されたことに基づいて身体的検査や推奨診断検査を行い、そのような徴候の原因を判断します。ただし、シニアの愛犬に高齢化に伴う健康の問題が複数あったとしても、ある程度のCDSの可能性はあります。

スコア合計が 4~15 は軽度、16~33 は中等度、33 を超えた場合は重度の CDS です。